

い ふゆー うちな-ぐち ちゃ ぐとうむ
伊波普猷や沖繩口如何ぬ如思と一たが (1)

2007 年 12 月

沖繩語研究家 船津好明

ほーげんるんそー い しょーわじゅーぐ にん う いっちん
 方言論争んで言-ね-、昭和 1 5 (1940) 年に起くたる一件や

しが、くれ- みんげー ちゅ ちゃー けんちよー やなぎむねよし そーえつ
 しが、くれ- 民芸ぬっ人ぬ 達と県庁ぬ、また、柳宗悦 (宗悦)

たー ゆしだ しえんたー うちな-ぐちみく うちな- やまと ぐど
 達と吉田嗣延達ぬ、沖繩口巡てぬ、また、沖繩んかい大和ぬ言

ばふる しかた ち で-じ い あらす
 葉広み-る仕方に付-てぬ、大事な言-争 いやたん。うんに-

ね- い ふゆー ぞしえ るくじゅーく うどう ぐどば
 ね- 伊波普猷や 歳-な- 6 0 超-て、音打っちょ-る言葉ぬ

がくさ い あらす い
 学者やたしが、くぬ言-争 いんかえ-入らんたん。

い あらす しょーわじゅーぐ にんそーふちしちにち な-ふ はじ
 言-争 え- 昭和 1 5 (1940) 年正月 7 日、那覇をて始また

しが、うぬ くと し と-ちよー ちて そーふち さんじゅーにち
 しが、うぬ事-直ぐ東京んかい伝-らつて、正月ぬ 3 0 日ぬ

- と-ちよー うちな- ちゅ ちゃー あち うちな-
 - 東京をてん沖繩ぬっ人ぬ 達が集まや-に、沖繩をと-てぬ

やまとぐち ふる かた ち じんみ めー い ふゆー かんげ かた
 大和口ぬ広み方に付-て、吟味さん。うぬ前に、伊波ぬ考-方ぬ

しょーわじゅーぐ にんそーふちさんじゅーにち おきなわにつぼー ん
 昭和 1 5 年正月 3 0 日ぬ沖繩日報んかい出じと-ん。うれ

- い ふゆー ぐどー か い ふゆー かた はなし
 - 伊波が胸くるさ-に書ちゃしえ-あらん、伊波が語たる話と

しんぶん きさ か い ふゆー きさ か しんぶぬ
 っし新聞記者ぬ書ちやるむんやん。伊波が、記者ぬ書ちやし新聞

んかい出じ-る前に見じ-がさら見だんがあたら分からんしが、

ゆ い ふゆー うちな-ぐち ちゃ ぐとうむ
 うり読み-ね-、伊波がうぬまんぐる沖繩口如何ぬ如思と一た

がんでる事ぬ解ゆん。言葉一大和口やししが、我ーが沖繩口んか

のーい直しーねー、大概下ぬ如成ゆん。

おきなわにつぼー 沖繩日報 しよーわじゆーぐ 昭和15(1940)年正月30日 にんそーちさんじゆーにち

(伊波ぬ語たるとくるぬど、伊波普猷全集(平凡社)第10巻432頁んかい
載とーる。)

『 やまどぐち 大和口ぬ広み方巡て(二)

いー仕方っし

伊波さのー語ゆん

やまどぐち 大和口広みーる仕方に付ーてぬ沖繩んじぬ言ー争いぬ沙汰ー、

とーちよー 東京まどん拡がて、今日夕さんて、6時から神田神保町をとー

て、とーちよー 東京んかい居る沖繩ん人ぬ集まやーに、くぬ事に付ーて吟

み 味さりゆん。くぬ集まい意込まちゃしえー比嘉春潮、八幡一郎、

とーどまいこーえー 親泊康永、金城朝永ぬ四所やししが、くぬ事に付ーて琉球ぬ

くどば 言葉ぬ学者んてち音打っちょーる伊波普猷さのー、下ぬ如語た
ん。

「くどば 言葉ど国んで言るむんぬ係わいに付ーてー、我んねーなー、前

から幾回ん書ちょーくと、今わじゃわじゃ言るむのー無ーんし

が、やまどぐち 大和口広みーしえー何やかんいー事やん。我っ達が小さた

る場所に比びーねー、今、沖繩ぬ言葉ぬ大和ぬ言葉んかい変わ

て^い行ちゆしえー^{うむ}思たしやかゆくん^{ふー}早く^{しし}進どーくと、うぬ^{しかた}仕方ぬ
わじゃ^{むちか}難^ねさしん^な無ーん^な成たんで^{うむ}思ゆん。国^{くに}ぬ^く言葉^くー^くち^な為すしど
な^な為さんしとー、うぬ^{くに}国^{さけ}ぬ^よ栄^よー^{ふか}ゆしど^{かか}弱^{かか}ゆしん^{かか}かい^{かか}深く^{かか}関わとーん。
く^くぬ^と事^とー、唐^とん^とかい^く言葉^くぬ^う多^うく^くある^く事^くからん、また、ヨ^くー^くロ^くッ
パ^{くに}ぬ^ん国^んぬ^か昔^しぬ^じ事^じ情^ょ見^んち^ん、^あ当^あたとー^{うむ}んで^{うむ}思^いゆん。言^いー^け換^けー^い
ねー、^{くに}国^くぬ^く言葉^くう^{くに}ぬ^く国^ちぬ^ちっ^ち人^なぬ^わ達^わ皆^かん^かかい^く解^くら^くする^く如^くす^くしえー、
う^{くに}ぬ^さ国^さぬ^さ栄^さー^さゆしど^さい^さぬ^さ肝^さ合^さや^さくと、^し政^し治^し向^しち^むぬ^むっ^む人^むー^ちくり^ちん
かい^ちだ^ちてー^ちん^ち力^ち入^ちり^ちら^ちん^ちだ^ちれー^な成^ならん。

やし^ちが、^わく^わぬ^わ際^わに^わ我^わー^わが^わ望^わど^わー^わしえー、^や大^や和^ま口^ま広^まみ^まー^ましえー^まい
ー^{しかた}仕^{しかた}方^{しかた}っ^{しかた}し^{しかた}さん^{しかた}だ^{しかた}れ^{しかた}ー^な成^なら^なん^なで^な言^なる^な事^なや^なん。^くく^くぬ^く事^くー^くラ^くヂ^くオ^くぬ^く聞^く
か^くり^くー^くる^く如^く成^くて、^ぬま^ぬぎ^ぬさ^ぬる^ぬ望^ぬみ^ぬぬ^ぬ見^ぬー^ぬて^ぬ来^ぬや^ぬん^ぬね^ぬー^ぬす^ぬん。^わ我^わん
ね^めー^め前^めに^め函^め書^め館^め長^めど^めっ^めし^め沖^め繩^めん^めかい^め居^めた^める^め場^め所^めに、^け県^けん^けかい、
や^やま^やと^や大^や和^やか^やら^や言^や葉^やぬ^や学^や者^やう^やん^やち^やけ^やー^やっ^やし、^ちう^ちん^ち人^ち達^ち考^ちー^ち聞^ちち^ちゆ^ちる^ち如^ち
う^くん^くぬ^くか^くて^く呉^くみ^くそ^くー^くり^くんで、^い幾^い回^いん^いう^いん^いぬ^いき^いた^いる^い事^いやし^いが、^あ後^あぬ^あ
う^とじ^とゆ^とめ^とー^と取^とい^と上^とぎ^とら^とら^とん^とた^とん。

や^やま^やと^や大^や和^やぬ^や言^や葉^や沖^や繩^やん^やかい^や広^やみ^やー^やしえー^やー^や杯^や大^や切^やや^やくと、^{やく}役^{やく}所^そー^ゆ言^ゆ
ー^うに^うん^う及^うば^うん、^む物^む知^むり^むぬ^む達^むや^むく^むぬ^む際^むに^むう^むぬ^む仕^む方^むに^む付^むー^むて、^{しかた}は^{しかた}ま
て^{じん}吟^{じん}味^み始^はみ^はー^{じん}ど^{じん}ん^{じん}しえー、^い言^いー^あ争^あえ^あー^あなん^あく^ある^あ収^あま^あゆ^ある^あ筈^あや^あん。

くどば 言葉んかえー にかし 昔ぬ 通い守て 行ちびちー 所んあい、 新さる 事取
い 入りー びちー 所んあん。 やくと 思はまて 吟味 っし 行ちー どん
しえー、 なんくるど じまゆる 筈やん。 びー 仕方 っし 大和口 広みー
しど 我ん 願ー やしが、 くりんかえー 胴考ー びけー じえー あらん
ぐど 如、 皆が 済まさりー 考ー 持たんだれー 成らん。」

しよー わ じゅー ぐ にん 昭和 15 年 ねー、 い 伊波ー とー ちよー 東京 をて 暮ら ちよー たん。 おきなわ 沖縄
につばー き さ 日報 記者ー くぬ 年ぬ 正月 30 日 やかん 前に 伊波ぬ 話 聞ちよ
ー たんて 思ゆん。 い 伊波が 県立 図書館 長 やたしえー 1909-1924 年
やくど、 い 伊波が 県んかい 願ー 出じ ちゃしえー、 1924 年 やか 前 やる
はじ 筈、 くれー 大和口 広みー する 仕方 に 付て ぬ言ー 争い ぬ 始 ます
1940 年 やか 16 年 余いん 前ぬ 事 成ゆん。 やしが、 書 ちえー する 物
ー 見ー 当たらん。 やくと 伊波ー 口さー に 県ぬ 役 人んかい 願 たる む
んが やら 分 からん。

けの 県ー、 はいばん あと けん な くる 頃 から 大和口 広みー しんかい 力
い 入っ とー たしが、 くれー 時ぬ 経ち ゅ 次第 強 まて 行 じゃん。 い 伊波ー
い 言ー 争い ぬ まんぐろー 大和口 広みー する 事 に 付て、 びー 仕方
しすし 望 どー しが、 うれー 記者 から 問ら っ て どの 世ぬ 中んかい 出
じたる。 くり とー 別に 沖縄 口 守り ンで 言ち、 うぬ 事 新聞 ンかい 胴
くる さー に 書 ちやる 柳 宗悦 と 比 びー ねー、 い 伊波ー 沖縄 ぬ 言葉 ぬ

がくさ うちな-ぐちまむ ちも そ-えつ ね
学者やたしが、沖繩口守ゆる肝-宗悦ぬさこ-無-んたん。

ほ-げんふだ がっこ- うちな-ぐちちか ふだ
方言札、くれ-学校をて沖繩口使たんぞるしるしぬ札やしが、

にん め- にんぐる ちか
1940年やかゆかい前、1907年頃から使-つと-ん。

い しま やまとぐちふる し しかた がつての
伊波-、大和口広み-しえ-済むしが、うぬ仕方-合点-さん

てい ちよ-ん。やしがくめ ぬ- い ね- しま ちむ
で言ちよ-ん。やしが細-きて-何ん言ちえ-無-ん。伊波ぬ肝

え- て- ほ-げんふだ くと わ ちむ
合や、-ちえ-方言札ぬ事-あらんたがや-んで、我んね-思ゆ

ん。い しま “い- しかた
ん。伊波- “い-仕方”かめ-ゆるたみ けぬ
なかいがやら、県んかい、

やまと がくさ かんげ ち ま にげ くん
大和ぬ学者ぬ考-聞ちゆしえ-益しんでる願-出じゃちやんで

い ちよ-しが、ど-ちゆい ちや な うま
言ちよ-しが、胴-人っしえ-如何-ん成らんで思てどあんさの

-あらんがや-。あと けの い しま にげ ち
-後ぬうじゆめ-県-、伊波ぬ願-や聞かんたん。

くとば がくさ やまと やなぎそ-えつ うちな-ぐちまむ
言葉ぬ学者-あらん大和ぬ柳宗悦や、沖繩口守ゆしんかいは

またん。くとば がくさ うちな- い しま ふゆ- うちな-ぐちまむ
またん。言葉ぬ学者やる沖繩ぬ伊波普猷や、沖繩口守ゆしえ-

さん くと な ゆ ちど ん- い しま ど- ど- すぐ ちゆ
さん如、成り行ちど見ちよ-たる。伊波-ど-ど-優りと-るっ人

やたん。

い ふう ふ ゆー う ちなー ぐ ち ちゃ ぐ とう う む
 伊波普猷や沖縄口如何ぬ如思と一たが(1)

2007年12月

沖縄語研究家 船津好明

ほーげんろんそー い しょーわじゆーぐ にん う いっちん
 方言論争んでい言ーねー、昭和15(1940)年に起くたる一件

やしが、くれー みるげー ちゆ ちゃー けんちよー やなぎむねよし
 やしが、くれー民芸ぬっ人ぬ達とう県庁ぬ、また、柳宗悦

そーえつ たー ゆしだ しえんたー う ちなー ぐ ち みく う ちなー
 (宗悦)達とう吉田嗣延達ぬ、沖縄口巡ていぬ、また、沖縄ん

やまと う く とう ば ふう りん しかた ち ー じ い あらす
 かい大和ぬ言葉広みーる仕方に付ーていぬ、大事な言ー争い

やたん。うんにーねー い ふう ふ ゆー とう し え るくじゆー くい う とう う
 やたん。うんにーねー伊波普猷や歳ーなー60超ーて、音打

っちょーる く とう ば がく さ い あらす い
 っちょーる言葉ぬ学者やたしが、くぬ言ー争いんかえー入らん

たん。

い あらす しょーわじゆーぐ にん そー ぐ わ ち し ち に ち なー ふう はじ
 言ー争えー昭和15年正月7日、那覇をうてい始またしが、

うぬ こと し とー ちよー ちて そー ぐ わ ち さんじゆー に ち
 うぬ事ー直ぐ東京んかい伝ーらつてい、正月ぬ30日ねー

とー ちよー う ちなー ちゆ ちゃー あち う ちなー
 東京をうていん沖縄ぬっ人ぬ達が集まやーに、沖縄をうとー

ていぬ やまと ぐ ち ふう りん かた ち じん み めー い ふう
 ていぬ大和口ぬ広み方に付ーてい吟味さん。うぬ前に、伊波ぬ

かんげ かた しょーわじゆーぐ にん そー ぐ わ ち さんじゆー に ち おきなわに っぽー ん
 考一方ぬ昭和15年正月30日ぬ沖縄日報んかい出じと

ーん。うれー い ふう どうー か い ふう かた
 ーん。うれー伊波が胸くるさーに書ちゃしえーあらん、伊波が語

はなし しんぶん き さ か い ふう き さ か
 たる話とうっし新聞記者ぬ書ちやるむんやん。伊波が、記者ぬ書

ちやし しんぶん かん じん めー んー んー わ
 ちやし新聞んかい出じーる前に見じーがさら見だんがあたら分

からんしが、うり ゆ りん い ふう う ちなー ぐ ち ちゃ
 からんしが、うり読みーねー、伊波がうぬまんぐる沖縄口如何ぬ

くとううむ 如 思と一たがんでいる 事 ぬ 解ゆん。 言葉一 大和口 やしが、我
うちなーぐち のー てーげーしちや ぐとうな
一が 沖縄 口んかい直しーねー、 大概 下 ぬ 如 成ゆん。

おきなわにつぼー しょーわじゆーぐ にんそーぐわちさんじゆーにち
沖縄 日報 昭和 1 5 (1940) 年 正 月 3 0 日

(いふわ かた (伊波ぬ語たるとくるぬど、いふわ ふ ゆーぜんしゆー へーほんしや だいじゆっかん ペーじ
ぬ 載とーる。)

『 やまとうぐち ふいる かたみぐ にー
大和口ぬ 広 み方 巡てい (二)

い しかた
いー 仕方 っし

いふわ かた
伊波さのー 語ゆん

やまとうぐちふいる しかた ち うちなー い あらす さた
大和口 広 みーる 仕方に付ーていぬ 沖縄んじぬ言ー 争 いぬ 沙汰

とーちよー ふいる ちゆーゆ るくじ かんだじんぼー
一、東 京 までいん 拡 がてい、今日 夕 さんでい 6 時から 神田 神保

ちよー とーちよー をう うちなー ちゆー あち
町 をうとーてい、東 京 ンかい 居る 沖縄 ン人ぬ 集まやーに、く

くとう ち じんみ あち いぐ ぶい
ぬ 事 に付ーてい 吟味 さりゆん。くぬ 集まい 意込 まちやしえー 比

じゃしゆんちよー やわたいちるー 鼻ーどうまいこーえー かにぐしくちよーえー ゆ とうくる
嘉 春 潮、八 幡 一 郎、親 泊 康 永、金 城 朝 永 ぬ 四 所 やし

が、くぬ 事 に付ーてい 琉 球 ぬ 言葉 ぬ 学 者 ンでい ち 音 打 っ ち

いふわ ふゆー しちや ぐとうかた
よーる 伊波 普 猷 さのー、 下 ぬ 如 語 たん。

くとうば くに ㊦ かか ち わ
「 言葉 とう 国 ンでい 言る むんぬ 係 わいに付ーてー、我 ンねー な

めー いくけーぬ か なま ㊦ ね
一、前 から 幾 回 ン書 ちよーくとう、今 わ じゃ わ じゃ 言る むのー 無

やまとうぐちふいる ぬー ぐとう わ たー
一 ンしが、大和口 広 みーしえー 何 や かんいー 事 やん。我 っ 達 が

くー ばす くら なま うちなー くとぅば やまとぅ くとぅば
小さたる場所に比びーねー、今ー、沖繩ぬ言葉ぬ大和ぬ言葉ん
かいかわてい行ちゆしえー 思たしやかゆくん 早く進どーくと、
うぬ仕方ぬ技ぬ難さしん無ーん 成たんでい思ゆん。国ぬ言葉
ていー な な くに さけ よー
ー ち為すしとぅ為さんしとー、うぬ国ぬ栄ーゆしとぅ弱ゆしんか
い深く関わとーん。くぬ事ー、唐んかい言葉ぬ多くある事か
らん、また、ヨーロッパぬ国ぬ昔ぬ事情見ちん、当たとーんで
い思ゆん。言ー換ーいねー、国ぬ言葉うぬ国ぬっ人ぬ達皆ん
かい解らする 如すしえー、うぬ国ぬ栄ーゆしとぅいぬ肝合やく
とぅ、政治向ちぬっ人ーくりんかいだてーん 力入りらんだれー
な
成らん。

やしが、くぬ際に我ーが望どーしえー、大和口広みーしえー
いー仕方っしさんだれー成らんでい言る事やん。くぬ事ーラヂ
オぬ聞かりーる 如成てい、まぎさる望みぬ見ーてい来ゃんねー
すん。我んねー前に図書館長とぅっし沖繩んかい居たる場所に、
けぬ やまとぅ くとぅば がくさ ちゅたーかんげ
県んかい、大和から言葉ぬ学者うんちけーっし、うん人達考ー
ち ぐとぅ くい いくけーぬ
聞ちゆる 如うんぬかてい呉みそーりんでい、幾回んうんぬきた
る事やしが、後ぬうじゅめー取い上ぎららんたん。

やまとぅ くとぅば うちなー ふいる いっぺーてーしち やくそ
大和ぬ言葉沖繩んかい広みーしえー一杯大切やくとぅ、役所

一言一にん及ばん、物知りぬ達やくぬ際にうぬ仕方に付一てい、
はまてい吟味始め一どうんしえ一、言一争え一なんくる収まゆ
る筈やん。言葉んかえ一昔ぬ通い守てい行ちびち一所んあ
い、新さる事取い入り一びち一所んあん。やくとう思はまて
い吟味っし行ち一どうんしえ一、なんくるとうじまゆる筈やん。
い一仕方っし大和口広み一しどう我ん願一やしが、くりんかえ
一胸考一びけ一じえ一あらん如、皆が済まさり一考一持
たんだれ一成らん。」』

昭和15年ね一、伊波一東京をうてい暮らちよ一たん。
おきなわにつば一きさ一くぬ年ぬ正月30日やかん前に伊波ぬ話
聞ちよ一たんでい思ゆん。伊波が県立図書館長やたしえ一
1909-1924年やくとう、伊波が県んかい願一出じちゃしえ一、1924
年やか前やる筈、くれ一和口広み一る仕方に付一ていぬ言一
あらずいぬ始まる 1940年やか16年余いん前ぬ事成ゆん。や
しが、書ちえ一る物一見一当たらん。やくとう伊波一口さ一に県
ぬ役人んかい願たるむんがやら分らん。

県の、廃藩ぬ後「県」成たる頃から大和口広み一しんかい
ちからい力入つと一たしが、くれ一時ぬ経ちゅ次第強まてい行じゃん。
伊波一言一争いぬまんぐる一和口広み一る事に付一てい、

いー仕方^{しかた}っしすし^{ぬじゆ}望^{のぞ}どーしが、うれ^{きさ}ー記者^{きさ}から問^とらっていどう
世^ゆぬ中^{なか}んかい出^いじたる。くりとー別^べに沖繩^{うちな}口守^{ぐちまむ}りんでい言^いち、
うぬ事^{こと}新聞^{しんぶん}んかい胸^どくるさーに書^かちやる柳^{やなぎ}宗悦^{そえつ}とう比^{くら}びー
ねー、伊波^{いば}ー沖繩^{うちな}ぬ言^{こと}葉^はぬ学^{がく}者^さやたしが、沖繩^{うちな}口守^{ぐちまむ}ゆる肝^{ちも}ー
宗悦^{そえつ}ぬさこー無^なーんたん。

方^{ほう}言^{げん}札^{ふだ}、くれー学^が校^こをうてい沖繩^{うちな}口使^{ぐち}たんでいしるしぬ札^{ふだ}
やしが、1940年^{にん}やかゆかい前^め、1907年^{にん}頃^{ぐる}から使^ちーつとーん。

伊波^{いば}ー、大和^{やまと}口^{ぐち}広^{ひろ}みーしえー濟^しむしが、うぬ仕^{しかた}方^がー合^が点^{てい}ー
さんで言^いちよーん。やしが細^くーきてー何^ぬん言^いちえー無^なーん。伊波^{いば}
ぬ肝^{ちも}合^あや、ーちえー方^{ほう}言^{げん}札^{ふだ}ぬ事^{こと}ーあらんたがやーんで、我^わんね
ー思^うゆん。伊波^{いば}ー“いー仕^{しかた}方^が”かめーゆる為^たなかいがやら、県^けん
かい、大和^{やまと}ぬ学^{がく}者^さぬ考^{かん}げー聞^ちゆしえー益^ましんでい願^{にげ}ー出^いじゃ
ちゃんでい言^いちよーしが、胸^どー人^{ちゆい}っしえー如^{ちや}何^なーん成^ならんでい
思^うまていどうあんさのーあらんがやー。後^{あと}ぬうじゆめー県^けの、伊波^{いば}
ぬ願^{にげ}ーや聞^ちかんたん。

言^{こと}葉^はぬ学^{がく}者^さーあらん大和^{やまと}ぬ柳^{やなぎ}宗悦^{そえつ}や、沖繩^{うちな}口守^{ぐちまむ}ゆしんかい
はまたん。言^{こと}葉^はぬ学^{がく}者^さやる沖繩^{うちな}ぬ伊波^{いば}普^ふ猷^ゆや、沖繩^{うちな}口守^{ぐちまむ}ゆしえ
ーさん如^{ごと}、成^なり行^ゆちどう見^んちよーたる。伊波^{いば}ーどうーどう優^{すぐ}り
とーるっ人^{ちゆ}やたん。

参考

沖縄文字一覧と用例

<p>と [tu] とい(鳥)、うと(音)、みと(夫婦)</p>	<p>と [hwe] と(南)にとでーびる(有難うございます)</p>
<p>と [to] とーふ(豆腐)、とーばる(桃園)</p>	<p>へ [he] へい(おい「目下への呼びかけ」)</p>
<p>ど [du] どし(友人)、やど(宿)、どー(自分)</p>	<p>や [ʔja] * やー(君、お前)、やん(言わない)</p>
<p>ど [do] どーぐ(道具)、まんどーん(たくさんある)</p>	<p>や [ˈja] やー(家)、やん(である)</p>
<p>て [ti] てーち(一つ)、てーだ(太陽)、てん(空)</p>	<p>ゆ [ʔju] * ゆん(言う)</p>
<p>て [te] てーく(太鼓)、てーしち(大切)</p>	<p>ゆ [ˈju] ゆんたく(おしゃべり)</p>
<p>で [di] ふで(筆)、ぬーでー(喉)、できやー(秀才)</p>	<p>よ [ʔjo] * よーいー(おさな子)</p>
<p>で [de] でーじ(大変なこと)、ちよーでー(兄弟)</p>	<p>よ [ˈjo] よーんなー(ゆっくり)</p>
<p>か [kwa] かじ(火事)、かっちー(ごちそう)</p>	<p>わ [ʔwa] * わー(豚)、わーちち(天気)</p>
<p>か [ka] かじ(風)、かんない(雷)、かーま(遠方)</p>	<p>わ [ˈwa] わーむん(私のもの)</p>
<p>が [gwa] にんがん(念願)、がんく(頑固)</p>	<p>み [ʔwi] * みー(上)、みーりきさん(面白い)</p>
<p>が [ga] がんちよー(眼鏡、めがね)、しがた(姿)</p>	<p>み [ˈwi] ゐきが(男)、ゐなく(女)</p>

く [kwi] くー (声)、さっくー (咳)、 くゆん (呉れる)	系 [?we] * 系ーきー (金持ち)、系んち ゆ (ねずみ)
き [ki] きー (木)、きゆん (蹴る)、 きぶし (煙)	系 [' we] うい系ー (お祝)、わじゃ 系ー (災い)
ぐ [gwi] ぐーく (越来「地名」) ぎ [gi] かーぎ (容ぼう)	ん [?N] * んみ (梅)、んに (稲)、ん なじ (うなぎ) ん [' N] んに (胸)、んみ (嶺井「地 名」)、んなど (港)
ぐ [kwe] ぐー (鍬)、からじぐー (髪き り虫)	い [' i] * いん (縁)、いだ (枝) い [?i] いん (犬)、いーび (指)、 いちゆん (行く)
ぐ [gwe] ぐったい (ぬかるみ) げ [ge] げー (害)、にげー (願い)	を [' u] * をど (夫)、をーじ (さと うきび) う [?u] うど (音)、うーび (帯)
ぐ [hwa] ぐー (葉)、なーぐ (那覇) は [ha] はる (畑)、はぎもー (荒地)	ぐ [' e] * ぐーま (八重山)、ぐーじ (八重洲) え [?e] えーさち (あいさつ)、え ーじ (合図)
ぐ [hwi] ぐーじゃい (左)、ぐーど (いる か) ひ [hi] ひやみかすん (えい、と言う)	お [?o] おーじ (扇)、おーさん (青 い) を [' o] をーじ (王子)、をーれー (往来)

[]内は沖縄語辞典による読み方

* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例 どい (鳥)、×どい

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。

伊波普猷は沖縄語をどう思っていたか(1)

2007年12月

沖縄語研究家 船津好明

方言論争といえは 1940(昭和 15)年の出来事だが、民芸家らと沖縄県庁の、あるいは柳宗悦らと吉田嗣延らの間の沖縄語を巡る、あるいは標準語普及問題を巡る有名な論争である。当時伊波普猷は既に 60 歳を超え、著名な言語学者であったが、論争には加わっていない。

論争は 1940(昭和 15)年 1 月 7 日、那覇で始まった。これはすぐ東京に伝わって、1 月 30 日には東京で沖縄出身有志が集まって、沖縄の言語問題についての座談会を開いている。それを前に伊波普猷の所見が、1940(昭和 15)年 1 月 30 日の沖縄日報に出ている。記事は伊波自身の筆ではなく、沖縄日報の記者が、伊波から聞いたことを載せた形になっている。伊波が原稿を校閲したかどうかは分からない。それを読むと、伊波が当時沖縄語のことをどう考えていたかを窺うことができる。言葉は標準語だが、私が沖縄語に直せば、概ね次のようになる。(沖縄語は 2 頁、7 頁参照。)

沖縄日報 昭和 15(1940)年 1 月 30 日

(伊波の談話の部分だけ、伊波普猷全集第 10 巻 432 頁に転載されている。)

『標準語問題の渦紋(二)

適正な奨励法を

伊波さんは語る

標準語問題の渦紋は遂に東京に拡大してけふ午後六時から神田神保町で同問題に関する在京有志諸君の座談会が開かれる。発起人は比嘉春潮、八幡一郎、親泊康永、金城朝永の諸氏であるが、この問題に関しわが国琉球語の権威伊波普猷氏は次の如く語る。

「言語と国家意識の問題については、屢々私の書いてきたところであり、今特別に言うこともないが標準語の奨励はもとより結構である。私たちが幼少の時分に較べて今日の沖縄に於ける方言問題は驚く程の進歩をみせてあるから、技術的に言つても困難が除去されたにちがひない。国語の統一離反がその国家の盛衰と著しく聯関を持つてゐることは支那に於て幾多言語が併存したヨオロツパ諸国における歴史上の事実に鑑みても窺れるところである。即ち標準語の普及はその国家の隆盛を意味するものであるから為政者もこの点に大いに尽力すべきであらう。

ただこの際、私の望みたいのは、この奨励の方法に適正を期すべしといふことである。然しこの点はラヂオ放送局の設立に依って大きな曙光がみえ初めたといつてもよからう。私が曾つて図書館長として沖縄に在任中、屢々言語関係の権威を県外から招いてその意見を徴することを県当局に進言したが遂に容れられなかつた。

言語問題の重大性に鑑みて当局を初め、有識者の各位が今度のことを契機として、真面目に方法の研究に着手せらるゝならば、この問題も自ら解決せられるであらう。言語は保守の面と共に進歩の面を持つてをり、積極的に努力することがそのまゝいゝ効果を齎らすだらう。方法の適正が私の注文であるがこれには感情を離れた真摯な態度が必要である。」』

1940(昭和15)年には伊波は東京にいて、1月30日よりも前に沖縄日報の記者の取材を受けたものと思われる。伊波が県立図書館長であったのは1909~1924年であるから、伊波が県当局に進言したのというのは1924年より前ということになる。即ち方言論争が始まった1940年よりも16年以上も前になる。しかしその文書は見当たらない。口頭で県の役人に言ったのかも知れない。

県は置県以来標準語の普及を推し進め、それも次第に強化されていった。伊波は上掲の記事で標準語奨励方法の適正を望んでいるが、これは記者の取材を受けて述べたもので、取材がなければ世に出なかつたものである。一方で、沖縄語を守ろうとして自ら新聞等に寄稿した柳宗悦に比べれば、伊波は言語学者でありながら、沖縄語を守ることに冷たかつた。

方言札は方言論争の頃よりもずっと前、1907年頃から一部の学校で使われた。伊波は、標準語の奨励はよいがその方法が適正でないと言っている。上掲の記事にはその具体的な内容はないが、彼が言う意味の一つは方言札のことではなかつたか、と私は思う。伊波は“適切な仕方”を模策するためか、県外の言語学者の意見を聞くよう県に進言したというが、彼にとって問題は自分一人ではどうにもならないと思っていたからかも知れない。結局、県は伊波の進言を取り上げなかつた。

言語学者でない大和人の柳宗悦は沖縄語を守ろうと努力した。言語学者である沖縄人の伊波普猷は、沖縄語を守る努力はせず、成り行きに任せた。伊波は偉大な人物であつた。

〒1870002 東京都小平市花小金井2-6-1 船津好明

Tel/Fax 042-467-1273

Email funatsu@mfv.biglobe.ne.jp